

令和4年2月1日

オミクロン株等による感染拡大状況を踏まえた感染防止対策

(令和2年12月4日付け「裁判所の新型コロナウイルス感染症の感染防止対策」補足)

最高裁判所事務総局

<ポイント>

● 基本的な感染防止対策の有効性

これまで裁判所で実施している基本的な感染防止対策（マスク着用を確実にすること、体調不良者がいないことを確実にすること、換気の確実な実施を含む「三つの密」の回避、手洗い・消毒、昼食時などの感染リスクが高い場面での対策）は、オミクロン株等の変異株による感染拡大状況下においても、同様に有効である。

● オミクロン株等による感染拡大状況を踏まえ、特に留意すべき事項

実施すべき基本的な感染防止対策は上記のとおり同じであるが、オミクロン株の感染力の強さを踏まえると、感染防止対策の実施に隙や緩みが生じている場合には、これまで以上に感染リスクが高まることから、その隙や緩みがないよう、改めて、次の事項に特に留意し、基本的な感染防止対策を徹底する必要がある。

- 不織布マスクの着用を確実にすること
- 換気の確実な実施と、「三つの密」のいずれをも回避すること
不織布マスク着用の場合であっても、換気が不十分なところで、多数の人が、長時間にわたって、発言する場면을回避すること。
- 昼食等の場面における留意点
執務室内や食堂等を問わず、昼食等をとる場合には、マスクを外した状態で会話をしないこと、会話をする場合にはマスクを着用すること。

第1 はじめに

裁判所においては、国際医療福祉大学医学部公衆衛生学和田耕治教授（司法行政事務の適正な遂行の確保に関する有識者委員）から、公衆衛生学等の専門的知見に基づくご助言をいただきながら、裁判手続や法廷等の特殊性を踏まえ、令和2年12月に、裁判所における新型コロナウイルス感染症（以下「本感染症」という。）の感染防止対策の在り方全体についての考え方（同月4日付け「裁判所の新型コロナウイルス感染症の感染防止対策」）を整理し、令和3年8月に、同月31日付けの「デルタ株等によ

る感染拡大状況を踏まえた感染防止対策」を整理した（以下、それぞれ、「感染防止対策（R2.12）」と、「デルタ株等・感染防止対策」という。）。

今般、オミクロン株等の変異株による感染拡大状況やワクチンの接種状況など、社会情勢等の変化を踏まえ、改めて和田教授のご助力をいただき、公衆衛生学等の専門的知見に基づき、現時点における裁判所の感染防止対策の在り方について、第2以下に考え方を補足的に整理した。

第2 基本的な感染防止対策の有効性

本感染症については、オミクロン株であっても、従来株（デルタ株含む。）と同じく、飛沫感染（会話などでの微細な飛沫を含む。）と接触感染により感染するものであり、主たる感染経路が上記飛沫感染であることに変わりはない。

したがって、「感染防止対策（R2.12）」及び「デルタ株等・感染防止対策」における基本的な感染防止対策（マスク着用を確実にすること、体調不良者がいないことを確実にすること、換気の確実な実施を含む「三つの密」の回避、手洗い・消毒、昼食時などの特に感染リスクが高い場面での対策）は、これまでと同様に有効である。

なお、ワクチンの2回の接種を完了した者がオミクロン株によって感染する例は多数報告されており、上記接種完了後も感染のリスクは高い。また、3回目の追加接種により感染予防効果は高まるが、効果に限界があり、感染する例も報告されている。したがって、これらのワクチン接種完了者を含め、引き続き、マスク着用をはじめとする基本的な感染防止対策を徹底していくことが求められている。

第3 オミクロン株等による感染拡大状況を踏まえ、特に留意すべき事項

オミクロン株については、感染した場合には、のどなどの上気道でのウイルスの増殖が顕著で、会話などにより広がりやすい。また、潜伏期間が短縮化していることや、再感染リスク（過去に感染した人やワクチン接種者が感染するリスク）や二次感染リスク（他者に感染させるリスク）が高いことが確認されており、これらの特性等により、これまで以上に感染者が増加している。

オミクロン株による感染の主たる感染経路は、第2記載のとおり、飛沫感染（微細な飛沫を含む。）であり、その感染は、家庭内感染のほか、これまで同様、マスクを外して会話をする飲食の場面での感染が多く、また、換気不十分な屋内で、多数の人が、長時間にわたって、発言する場面での感染が報告されている。

オミクロン株の上記特性等を踏まえると、実施すべき基本的な感染防止対策は同じである（第2）が、オミクロン株の感染力の強さ等からすると、その感染防止対策の実施に隙や緩みが生じている場合には、これまで以上に感染リスクが高まることから、

その隙や緩みがないよう、次の1から5までの事項について特に留意し、基本的な感染防止対策を一層実効的なものとしていく必要がある。

1 不織布マスク着用を確実にすること

引き続き、裁判所職員において、執務中のマスク（不織布マスクを基本）の着用を徹底し、事件関係者等の来庁者に対しては、裁判所ウェブサイトやポスターの掲示等により十分な理解と協力を求め、原則としてマスクの着用を要請することが重要である（「感染防止対策（R2.12）」5頁、「デルタ株等・感染防止対策」3頁参照）。

※ 電話をする場面でもマスクをしたまま行うよう徹底する必要がある。

2 体調不良時の対応

オミクロン株の感染による症状は、デルタ株等に比べ、軽症ではあるが、のどの痛み、咳、鼻水、発熱等が多く見られる（味覚や嗅覚の障害、デルタ株で指摘された下痢等の消化器症状は減っていると指摘されている。）。上記症状がある場合には、職員が登庁しないこと、事件関係者等の来庁者が来庁を控えていただくことを確実にすることが重要である。

職員においては、登庁前に自宅で検温を行うなど、自らの体調をしっかりと把握し、体調管理を適切に行う必要がある。

※ 体調不良時の対応について、感冒様症状がなくなってから48時間経過後に当該職員を登庁させて差し支えない、咳等の症状が長引いた場合で発症時から8日間経過し、当該職員において登庁に支障がないときは登庁を認めることも考えられるという目安についても、特に変更はない（「感染防止対策（R2.12）」9頁参照）。

3 「三つの密」の回避

(1) 「密を避ける」

オミクロン株は伝播力が高いため、換気の悪い「密閉」、多数が集まる「密集」、間近で会話などをする「密接」の一つだけでも集団感染のリスクが高まる可能性があることから、引き続き、三つの密のいずれをも回避することによって、リスクの低減につなげることが重要である。なお、マスクを着用した上での確保すべき人と人との間の距離の程度はこれまでと同じく1メートル程度が良い。

※ 傍聴席の取扱い（「感染防止対策（R2.12）」13頁参照）についても、これまでと同じ取扱いでよい。

(2) 換気の確実な実施について

微細な飛沫による感染リスクを低減する観点から、換気に留意し、1時間に1回数分程度、窓やドアを開け（可能な限り2か所）、引き続き、換気を確実に実施することが重要である（「感染防止対策（R2.12）」17頁参照）。

緊急事態措置やまん延防止等重点措置の対象地域においては、窓のない比較的狭い事務室（12平方メートル程度）を使用するに当たっては、機械換気がされていても、利用者数や利用状況等に応じ、30分に1回数分程度の換気を行うことが望ましい。このような部屋の利用に当たっては、年に数回程度、二酸化炭素濃度測定器を利用して二酸化炭素濃度を確認することも考えられる。

※ なお、パーティションの利用は、主としてマスク非着用者からの大きな飛沫を防止するために設置するものであり、パーティションを多く設置すると、換気の観点から好ましくない場合もあることから、後記4記載の設置を除き、追加的に設置する必要はない。

4 昼食等をとる場面

執務室内や食堂等を問わず、昼食等をとる場合には、マスクを外した状態で会話をしないこと、会話をする場合にはマスクを着用することを、引き続き、徹底することが極めて重要である。

執務室内で昼食をとることが多い場合は、咄嗟にマスク無しで電話に出てしまうことなども考えられることから、正面の席との間ではパーティションを設置しておくことは有効である（左右の席との間に1メートル程度の距離がある場合にはパーティションを設置しなくてもよい）。

昼食時には、窓を開けるなど、換気を心がける。

5 事件関係者とともに来庁する幼児等との対応の場面

ウイルスの変異に伴って感染力が強まり、小児の感染事例も増加傾向にあることから、マスクの着用を求めることが困難な幼児等と対応する職員は不織布マスクを着用し、換気も確実に実施することが重要である。対応する職員が希望すれば、不織布マスクを着用の上、フェイスシールドを用いることも考えられる。

※ 「感染防止対策（R2.12）」8頁（児童室における消毒の場面）・16頁（幼児等を対象とした調査の場面）において、「15歳未満の感染については成人と比べて限定的である」との記載があるが、オミクロン株についての感染状況は上記のとおりである。この感染状況を踏まえても、上記各場面の感染防止対策は、「感染防止対策（R2.12）」の記載のとおりでよい。

（その他の補足）

- 消毒をすべき場合や方法（「感染防止対策（R2.12）」7・8頁参照）、エレベーターの使用上の留意点（同20頁参照）、感染者等との対応（「デルタ株等・感染防止対策」5頁）、第三者の住居・居室を訪問する場合（同6頁）について、これまでの取扱いと同じでよい。

以上